

国 語

1 学習指導と評価の工夫・改善

学習指導と評価の工夫・改善に当たっては、平成14年度高等学校新教育課程編成の手引及び平成15年度高等学校教育課程編成・実施の手引において、各領域ごとの指導時数を確保した指導計画を作成するとともに、評価の観点及びその趣旨を踏まえ、科目の目標や各学校での指導内容に即した評価規準を適切に設定することの必要性を示してきた。

今回は、適切な評価を行うための評価計画の作成と観点別評価の進め方及び観点別評価の総括の方法について、具体的な事例を挙げて述べることにする。

2 評価方法の改善・充実

(1) 評価計画の作成

ア 作成上の留意点

(ア) 一単元で身に付けさせたい言語能力(「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」)は原則として一つに重点化し、評価の観点や評価規準も絞り込んで作成することが重要である。

(イ) 「評価計画表」に示す評価規準は、学習の実現状況が「おおむね満足できると判断される」状況(B)を基本として作成すること。

(ウ) 意図的・計画的に指導したことを評価するよう作成すること。

(エ) 目標に準拠した評価は、目標を設定した指導者が行うよう作成すること。

イ 評価計画表の例

科目名 国語総合 単元名 「書いて伝えよう」

科目名	国語総合				
単元名	「書いて伝えよう」				
単元の目標	(1) 相手や目的に応じて題材を選び、伝えようとする意思をもって自分の意見をまとめようとする態度を身に付ける。(関心・意欲・態度) (2) 自分の意見を相手に納得させるために、主張を明確にし、しっかりした組立ての文章を書く。(書く能力) (3) 題材に応じた考察の型や論理的な文章展開の型を理解する。(知識・理解)				
評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
内容のまとめりごとの評価規準 (太字は「単元の評価規準」を示している。)	・相手や目的に応じて題材を選び、自分の考えを文章にまとめたり効果的な表現を考えて書いたりしようとしている。	/	・相手や目的に応じて題材を選んでいる。 ・相手や目的に応じて効果的な表現を考えて書いている。 ・論理的な構成を工夫して、自分の考えを文章にまとめている。 ・書くことに役立てるために、優れた表現に接してその条件を考えている。 ・優れた表現を自分の表現に役立てている。	/	・文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記などを理解し、語彙を豊かに身に付けている。 ・主な常用漢字について、適切な使い方を身に付けている。 ・国語の成り立ちや特質、言語の役割などについて理解している。

評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
学習活動における具体的な評価規準	・目的にふさわしい題材を選び、伝えようとする意思をもって、自分の意見をまとめようとしている。		相手や目的に応じた題材を選び、それにふさわしい材料や情報を収集、整理している。 自分の考えを相手に納得させるために、主張を明確にし、書く順序を工夫している。		・表現に役立てるために、文章の型、表記、語句、漢字等を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	・行動の観察() ・作品提出の確認()		・ワークシートの記述の点検() ・作品内容の点検()		・ワークシートの記述の点検() ・作品内容の点検()
配当時間	4時間				

表中の は、単元の評価の総括の資料とする。 は、単元の評価の総括の資料としない。

(2) 観点別評価の進め方

ア 各時間の指導と評価の計画

時	各時間の目標	学習活動	学習活動における具体的な評価規準	評価方法等
1	・単元の目標を理解し、自分の考えをもつ。 ・効果的な表現について理解する。	・「本の帯」がどのようなものなのかを知る。 ・「本の帯」を作成するために必要な表現を考えてみる。 ・「本の帯」を作成するための「本」を探す。	「関心・意欲・態度」 「知識・理解」	・活動状況の観察 ・ワークシートの記述状況の点検 ・授業後に提出されたワークシートの記述の点検
2	・相手や目的に応じて題材を選び、伝えようとする意思をもって文章をまとめる。	・「本の帯」で伝えたいことを明確にする。 ・「本の帯」の下書きをする。 ・自己評価する。	「書く能力」 「書く能力」	・机間指導によりワークシートの記述の点検 ・授業後に提出されたワークシートの記述の点検
3	・相互評価の結果を推敲に生かし、説得力ある「本の帯」を作成する。	・下書きを校正する。 ・5～6人のグループをつくり、下書きを読み合い、お互いの文章を批評し合う活動をとおして、自分の表現や考え方を整理する。 ・「本の帯」を清書する。	「書く能力」	・机間指導により相互批評を受け推敲した下書きの点検
4	・相互評価をもとに分析した結果を生かして、自分の表現を見直し、効果的な表現の在り方を確認する。	・清書した「本の帯」を、前時のグループで相互評価シートを用いて相互評価する。 ・相互評価シートをもとに、自分の「本の帯」について自己評価する。	「知識・理解」	・授業後に提出された「本の帯」と自己評価シートの分析

「関心・意欲・態度」は、1時間目に位置付けているが、単元全体を通してその持続や変化のありようを継続的にみていくことも大切である。

イ 各時間の指導と評価の実際

〔第1時〕

(ア) 本時の目標

- a 単元の目標を理解し、自分の考えをもつ。
- b 効果的な表現について理解する。

(イ) 本時の主な評価の観点及び評価規準

a 「関心・意欲・態度」

目的にふさわしい題材を選び、伝えようとする意思をもって、自分の意見をまとめようとしている。

b 「知識・理解」

表現に役立てるために、文章の型、表記、語句、漢字等を理解し、知識を身に付けている。

(ウ) 指導と評価の実際（ワークシートは - H16国 8 - 【参考資料】に掲載）

学習活動	指導上の留意点	評価の実際
<p>ア「本の帯」がどのようなものかを知る</p> <p>・資料や説明をもとに、学習の目的や意義について全体で確認する。</p>	<p>・「本の帯」について、説明する。</p> <p>【資料例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒がよく読んでいるような本の「本の帯」 ・生徒がよく知っているような話題の本の「本の帯」 	<p>ゴシック体は、評価の方法を示す。以下同じ。</p> <p>「関心・意欲・態度」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本の帯」を作成する目的や意義を理解しようとしているかを、授業中に机間指導をしながら、生徒の活動状況を観察したり、ワークシートへの記述の状況を参考にしたりすることで評価する。 <p>【Cの生徒への指導の手だて】</p> <p>理解しようとしていない生徒には、何のためにこの活動をしているのかを改めて意識させるよう助言する。</p>
<p>イ「本の帯」を作成するために必要な表現の工夫について考える</p> <p>・効果的な表現について全体で確認する。</p>	<p>・生徒がよく知っている内容の「本」を提示し、「本の帯」を作成するための、印象的なキャッチフレーズを考えて発表させる。</p>	<p>【Cの生徒への指導の手だて】</p> <p>効果的な表現について理解できない生徒には、強く印象に残った発表、テレビのCM、ポスター等のキャッチフレーズ具体例を示し、再度考えてみるよう助言する。</p>
<p>ウ「本の帯」を作成するための「本」を探す</p> <p>・図書館の蔵書の中から本を探す。</p>	<p>・図書館の蔵書の中に、生徒が希望する書籍がない場合には、生徒が所持しているものでも可とする。</p> <p>・選んだ書籍を次時まで読んでおくように指示する。すでに読んだ書籍を用いる生徒には、再度全体の内容を確認しておくように指示する。</p>	<p>ワークシートは授業後に提出させ、①、②の記述を点検し、「知識・理解」の観点を評価する。</p>

〔第2時〕

(ア) 本時の目標

相手や目的に応じて題材を選び、伝えようとする意思をもって文章をまとめる。

(イ) 本時の主な評価の観点及び評価規準

a 「書く能力」

相手や目的に応じた題材を選び、それにふさわしい材料や情報を収集、整理している。

b 「書く能力」

自分の考えを相手に納得させるために、主張を明確にし、書く順序を工夫している。

(ウ) 指導と評価の実際（ワークシートは - H16国 8 - 【参考資料】に掲載）

学習活動	指導上の留意点	評価の実際
<p>ア 「本の帯」で伝えたいことを明確にする</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを使用して「本の帯」を作成する際に必要な事項を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに順を追って記述していくことで、自動的に下書きができあがるように、ワークシートの構成を工夫する。 	<p>「書く能力」</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の伝えたいことをはっきりと書くために、どのような題材を収集し、どのように整理しているのかを、授業中に机間指導をしながらワークシート の1]の1～4の記述を点検し、「おおむね満足できる」と判断した生徒は、下書きの記述へと進ませる。 <p>【Cの生徒への指導の手だて】</p> <p>自分の伝えたいことがはっきりと書かれていない生徒には、その本の一番気に入ったところが何であるかを質問し、それを箇条書きで書くよう助言する。</p>
<p>イ 「本の帯」の下書きをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートの記述をもとに、下書きをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「表面」については、短い表現で相手に伝わるような書き方を工夫させる。 「裏面」については、自分の主張を明確にし、しっかりとした構成になるよう整理して書かせる。 下書きシート（裏面）に、「エピソード」部分30文字、「感想」部分50文字、「アピール」部分120文字程度を目安として書かせる。 下書きシート（表面）については、字数制限をしない。 	
<p>ウ 自己評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の書いた下書きを自己評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価のポイントは、次の3項目とする。 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 意見が明確であるか (イ) 相手や目的に応じて効果的に表現しているか (ウ) 意見を支える事実や体験を明確に示しているか 	<p>「書く能力」</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の主張を明確にし、しっかりした組立ての文章を書いているかを、授業後に提出させたワークシート の2]下書きと生徒が自己評価したものを分析することで評価する。 <p>【Cの生徒への指導の手だて】</p> <p>しっかりした組立ての文章が書けない生徒には、再度ワークシートに戻って検討させる。</p>

ウ 「十分満足できると判断される」状況と評価される具体的な例及び「努力を要すると判断される」状況と評価される生徒への指導の手だての例

	学習活動における具体的評価規準（B「おおむね満足できると判断される」状況）	A「十分満足できると判断される」状況と評価する際の「キーワード」とその具体的な姿の例 C「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だての例
関心・意欲・態度	・目的にふさわしい題材を選び、伝えようとする意思をもって、自分の意見をまとめようとしている。	A「目的意識、材料収集、文章構成」 ・何のために、だれに向かって、どのような条件で書くのかを考え、その相手や目的にふさわしい材料を収集、選択し、用語や文章の組立てなどを工夫して書こうとしている。 【Cの生徒への指導の手だて】 自分の意見がまとめられない生徒には、他者の取組を参考にさせたり、教師が具体的に助言を与えたりする。
書く	相手や目的に応じた題材を選び、それにふさわしい材料や情報を収集、整理している。	A「材料収集、整理」 ・相手や目的に応じた題材を選び、それにふさわしい材料や情報を、学校図書館等を活用して収集し、その必要性や重要度などによって整理している。 【Cの生徒への指導の手だて】 題材が選べない生徒には、多様なジャンルの書籍を提示し、読んでみたいと思えるものを選ばばよいことを助言する。材料や情報を収集、整理できていない生徒には、自分の考えや感想等を素直に書いてみるよう助言する。
こ と	自分の考えを相手に納得させるために、主張を明確にし、書く順序を工夫している。	A「効果的な表現、文章構成」 ・自分の考えを相手に納得させるために、単なる思いつきや感想を超えて、事実や事柄を冷静に書き表し、しっかりした組立ての文章を書いている。 【Cの生徒への指導の手だて】 主張を明確にして書くことや、順序を工夫することができていない生徒には、他者の作品や効果的、印象的な「本の帯」のモデルを参考にしよう助言する。
知識・理解	・表現に役立てるために、文章の型、表記、語句、漢字等を理解し、知識を身に付けている。	A「表現技法、語句・語彙」 ・文章の型、漢字の使い方、仮名遣い、送り仮名の付け方、外来語の表記、平仮名と片仮名の使い分け、句読点や各種の符号の使い方、改行や引用の仕方などの表記全般について、効果的に表現するための知識や技能を身に付けている。 【Cの生徒への指導の手だて】 文章の型、表記、語句、漢字等を理解していない生徒には、よくない例と効果的に表現されている例を提示し、不適切な表現箇所やよいと感じる箇所を指摘させたりする。

「努力を要すると判断される」状況（C）と評価された生徒への指導の手だては、その時間でなすべきこと、単元中でなすべきこと、単元を超えてなすべきことの視点が必要となる。そこで、「イ 各時間の指導と評価の実際」における手だては、時間中及び単元中で、ねらいとしている言語能力が確実に身に付くような指導、助言を中心としている。

一方、「ウ 『十分満足できると判断される』状況と評価される具体的な例及び『努力を要すると判断される』状況と評価される生徒への指導の手だての例」では、単元終了後でも単元でねらいとした言語能力を身に付けるべく継続して努力できるような手だても含めている。

(3) 観点別評価の総括の方法

ア 総括についての考え方

この単元では、「関心・意欲・態度」、「書く能力」、「知識・理解」の3つの観点で、「学習活動における具体的評価規準」を設定している。この評価規準に基づいて各時

間の評価がなされ、その積み重ねで単元としての評価が総括される。単元の総括を行う際に使用する【評価表の例1】を次ページに示す。

なお、この以外にも、単元における観点別評価の総括については様々な考え方や方法があると思われるので、各学校において工夫することが望まれる。

イ 学期末及び学年末の評価への総括

(ア) 【評価表の例1】について

次ページに掲げた【評価表の例1】には、各生徒が単元の目標に照らして「おおむね満足できると判断される」状況（B）になったと評価される時点で、各観点の評価規準の欄の左側のB欄に 印を記入する。その後、質的な高まりや深まりが見られて「十分満足できると判断される」状況（A）と評価した場合には、右側のA欄に 印を記入する。各観点の評価の欄には、本単元における観点ごとの評価を総括したものを記入する。また、特記すべき事項の欄は、指導者が特に気付いた点などを記録する際に用いる。

なお、2時間にわたって同一の評価規準で評価する際には、1時間目の評価はチェック程度にとどめ、2時間目の実現状況を見てから 印を記入するようにする。

(イ) 総括の具体的な方法について

単元における総括については、原則として、A、B、Cの数の過半数でその評価を決めることになる。例えば、ある観点で4つの評価規準がある場合、「A、A、A、B」であれば「A」となるし、「A、B、A、B」であれば「B」となる。また、「A、C、B、C」の場合は、「A、C」を「B、B」と読みかえる操作を行い「B」と評価する。

なお、重み付けをする場合には、その重みに応じて評価することになる。例えば、「A、B、A、B」であっても、3つ目の評価規準が2倍の重みであれば、ここの評価は「A」となる。

この単元では、単元の目標「(2) 自分の意見を相手に納得させるために、主張を明確にし、しっかりした組立ての文章を書く。」に重点を置き、学習活動における具体の評価規準の「書く能力」の「自分の考えを相手に納得させるために、主張を明確にし、書く順序を工夫している。」に2倍の重みを付けて単元の評価を総括した。

例えば、2番の生徒は、 の評価規準について「十分満足できると判断される」状況（A）と評価されているので、「A」が過半数を超え、総括でも「A」となる。

一方、1番の生徒は、重みを付けている の評価規準が「おおむね満足できると判断される」状況（B）にとどまり「A」が過半数を超えず、総括は「B」となる。

（【評価表の例1】参照）

学期末における総括についても、単元における総括と同様とする。（【評価表の例2】参照）また、単元や学期末における総括と同様の考え方で学期毎の評価を総括し、評定を出すことができる。

(ウ) 継続的な指導について

【評価表の例1】の出席番号4番の生徒は、「書く能力」が「努力を要すると判

断される」状況（C）と評価されている。このような生徒については、「(2)観点別評価の進め方」のウに挙げた「Cの生徒への指導の手だて」に示した手だてを講じ、この単元の終了後も意図的、継続的に指導を行うことが大切である。

【評価表の例1】

科目名		国語総合		指導クラス	年 組	教科担任氏名					
番 号	氏 名	関心・意欲・態度		書く能力				知識・理解		特記すべき事項	
		評価規準		評価規準		評価		評価規準			評価
		B	A	B	A	B	A	B	A		
		目的にふさわしい題材を選び、伝えようとする意思をもって、自分の意見をまとめようとしている。		相手や目的に応じた題材を選び、それにふさわしい材料や情報を収集、整理している。		自分の考えを相手に納得させるために、主張を明確にし、書く順序を工夫している。 2倍の重み		表現に役立てるために、文章の型、表記、語句、漢字等を理解し、知識を身に付けている。			
1			B					B		A	
2			A					A		B	
3			B					B		B	
4			B					C		B	
40			B					B		B	

表中の は、2倍の重みの例を示している。

【評価表の例2】

科目名	国語総合	単位数	4単位	学期	前期	年 組	番	生徒氏名	
観点別評価の観点		関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解			
単元名(例)									
「小説を読む」 ()		A	-	-	A	A			
「意見文を書こう」 ()		A	-	B	-	B			
「スピーチをしよう」 ()		B	B	-	-	A			
「評論を読む」 ()		B	-	-	B	B			
「古典に親しむ」 ()		A	-	-	A	A			
「討論をしよう」 ()		B	A	-	-	B			
「書いて伝えよう」 ()		B	-	B	-	B			
定期考査(中間・期末)()		-	-	B	A	A			
学 期 末 ()		B	B	B	A	B			

表中の () には、実施時数を記入する。

ワークシート 「本の帯作りに挑戦しよう」(知識・理解)	氏名	学習のねらい・・・「効果的な表現について理解しよう」 【評価】
1 「本の帯(帯紙)とは・・・書籍の表紙や外箱に帯のように巻いた紙・・・」 【評価】		
(表)		
50字以内の 印象的な表 現で惹き付 ける		
7 cm 13 cm		
(裏) 200字以内で 内容がある 程度説明し ている		
(1)用途 【評価】	(2)内容 【評価】	(3)表現の工夫 【評価】
目立つ色紙使用 著名人の推薦文掲載 パターンはおおむね次のとおり	内容を的確に紹介しているとは言い難いタイプ で惹き付ける	要約と説明を行うタイプ で惹き付ける
ウィア 目立つ色紙使用 著名人の推薦文掲載 パターンはおおむね次のとおり		
感覚でアピールするタイプ 【評価】		
2 「キャッチフレーズを考えてみよう」 (1)示された本の題名から、相手にアピールできるキャッチフレーズを考えてみよう。 『本の題名』 キャッチフレーズ (2)発表されたキャッチフレーズの中から印象に残ったものを書き留めておこう。		

【評価】の欄の上段は、生徒の自己評価欄。できていれは、をつけ、できていなければ空欄としてきた時点で、をつける。下段は、教師の評価欄。A・B・Cで評価する。

1 「A・・・正確に理解できている。」
 2 「B・・・おおむね理解できている。」
 「C・・・理解できていない。」

ワークシート 「本の帯作りに挑戦しよう」(書くこと)	氏名	学習のねらい・・・「自分の考えを相手に伝えるために書く工夫をしよう」 【評価】
1 伝えたいことを明確にするために「・・・」 【評価】		
(表面)		
(裏面)		
2 下書き		
1 紹介する本のタイトルと著者名(図書館にあれば「有」、なければ「無」に付ける) (有・無)	2 その本と出会ったいきさつやエピソード	3 その本について、読後の感想や気に入ったところ 箇条書きでもよいから簡潔に書く。
4 その本について、自分が紹介したいことやアピールしたいこと 箇条書きでもよいから簡潔に書く。	【評価】 教師 ウ イ ア 生徒 ウ イ ア	

【評価】の欄の上段は、生徒の自己評価欄。できていれは、をつけ、できていなければ空欄としてきた時点で、をつける。下段は、教師の評価欄。A・B・Cで評価する。

1 「A・・・収集した材料を重要度によって整理している。」
 「B・・・ふさわしい材料を収集している。」
 「C・・・十分に満足できる。」

2 「A・・・十分に満足できる。」
 「B・・・おおむね満足できる。」
 「C・・・努力が必要である。」